

土壤医試験1級合格体験記

神田 美奈子*

はじめに

私は、平成13年に福井県に採用されてから14年間、土壤肥料に関する試験研究を行ってきました。はじめの5年間は農業試験場で、野菜の堆肥連用試験や水稻の三要素試験などを行い、平成18年からは園芸研究センターに異動し、本県の特産果樹であるウメの土壤肥料について試験してきました。

その中でも印象深いのは、水稻では平成16年7月に起こった福井豪雨です。多くの農地に土砂が流入しましたが、時期的にイネの出穂期前後にあたり、早急に91地点の水田土壤を手分けして分析しました。その結果、汚染の心配がないことや今後の土壤管理について現場へ報告することができました。

ウメでは、園地の土壤養分バランスの崩れだけでなく、物理性にも問題があることが分かり、特に重機を用いて開園した園地では、踏圧された土壤が固くなっており、ウメの根量が少なく、樹勢も弱くなります。そこで、ホールディガーによる土壤改良と局所施肥を組み合わせた試験を行った結果、根量の増加を確認することができました。

これまで土壤肥料に関する試験研究を行ってきましたが、良い結果が得られたとして



ホールディガー

も、現場で活用されなければ、意味をなしません。土づくりについて、どう説明すれば、現場で理解していただけるのか、ということは常々、考えていることでした。そこで、土壤医検定が開始されたのを機に、農業に携わる方々に説得力のある説明をするための知識や技術のスキルアップ、資格取得による信頼性の向上をねらい、受験しました。

試験対策

1) 学科試験・記述試験

試験対策として、研修会に参加したかったのですが、日程が合わず、残念ながら、受講することができませんでした。なので、私が試験対策として行ったことは、土壤医検定1級対応参考書を重点的に読み込むことです。

最初は、始めから終わりまで、ざっと目を通し、次に項目ごとに、じっくりと読みまし

*福井県嶺南振興局、土壤医

た。特に、「1. 土壌化学性と農作物安定生産・品質向上」の章は、基礎的な内容を学習し直すつもりで、要点をまとめながら読んでいきました。また、当県の農業は水田がメインであるため、園芸に関する知識に不安があったので、園芸に係る部分は意識して何度も読みました。作物の土壌病害や生理障害の部分は、原因とそれに対する対策を最初の章に立ち返り、整理しながら覚えるようにしました。

試験中は、とにかく時間が足りないと感じました。2級の問題と比べ、1級の問題は読んで理解するのも少々、手間取ります。過去問題集も出版されたとのことなので、実際に時間を計りながら問題を解かれると、1つの問題にかけられる時間の感覚が分かって良いのではないのでしょうか。

2) 業績レポート

業績レポートで心掛けたことは、試験データや結果の羅列にならないように書くということです。土壌医検定の概要や業績レポートの作成上の留意点から読み取ると、土壌医として求められていることは、現場とどのよう

に関わってきたのか、が重要視されているのではないかと考えられました。なので、試験データがどうだった、ということではなく、地域の土壌にどのような問題があって、どのように克服する手段を考え、それらのことを農家や関係者に伝えた結果がどうなったか、という視点でまとめました。

このレポートは配点されるので、基本的なことですが、簡潔に分かり易くまとめられているか、話のすじ道がきちんと通っているかなど、書き終えてから、読み直すことも大切です。参考書もボリュームがあり、読み通すにも時間が必要となってきますので、新たに受験される方には、早いうちから少しずつでも試験の準備を始められることをおすすめします。

今回、土壌医の資格を得るために試験勉強をしましたが、知識の見直しができたり、新たに得られたりしたことも多く、資格取得以上に有意義な時間を得られたのではないかと感じています。今後も、常に知識をブラッシュアップし、研修会にも積極的に参加したいと思います。